事例No.	2451
公表年度	R5
団体の属性	その他
団体名	一般社団法人おいでん・さんそん

事例区分	地域活性化

タグ	・地域運営組織 ・移住定住 ・関係人口

事例種類	移住・定住促進

事例内容・タイトル

都市と山村が支え合う「暮らし満足都市」豊田市～中間支援組織”おいでん・さんそんセンター”の取組～

出典

平成29年度優良事例表彰一覧

全国過疎地域自立促進連盟 会長賞

一般社団法人　おいでん・さんそん

都市と山村が支え合う「暮らし満足都市」豊田市 ～中間支援組織“おいでん・さんそんセンター”の取組～



都市部の小学生が親元を離れて山村の暮らしを体験する「セカンドスクール」を春休み、夏休みを中心に開催、延べ２００名の児童が参加する。

事例の概要



山村部での精神障がい者就労支援施設「畦道」の起業を支援。代表の今枝さん(右)、副代表の鈴木さん(左)。

豊田市は、平成の合併により過疎地域を含む広大な都市となった。集中的な過疎対策にも関わらず人口減少に歯止めがかからないことから、2013 年８月、都市と山村が共存するまちだからこそ可能な、都市と山村の支えあいをコーディネートする中間支援組織「おいでん・さんそんセンター」を設立した。そこをプラットフォームとして住民、企業、団体、NPO、研究者などが集い、専門性を生かしながら市民主導の取組みを迅速、柔軟に展開している。

都市と山村をつなぐ支援として、耕作放棄地に悩む山村部の集落と農業を通した若手社員の人材育成を狙う都市部企業のコーディネートを始めとする企業と山村地域のマッチング支援、研修・体験・CSR 事業のコーディネート、山村でのソーシャルビジネスへの助言等を実施している。また、移住定住を総合的に支援するいなか暮らし総合窓口も開設している。

このような都市と山村を「つなぐ」中間支援は、低コストで、都市と山村双方の課題を同時に解決し、過疎の問題を山村固有の問題とせず、都市住民と共に解決する仕組みづくりに工夫を凝らしている。

評価のポイント

広域合併により都市部と過疎山村を含む新豊田市が誕生した後も、過疎地域の人口減少に歯止めがかからないことから、この地域ならではの、都市と山村が共存できる、支え合いをコーディネートする目的で「おいでん・さんそんセンター」が設立された。主な活動は３つあり、①山村の資源である、農地、山林、農家の技術などと都市住民や企業やＩターン希望者などを結ぶコーディネート事業、②田舎暮らし総合窓口として、移住者受け入れのための空き屋活用プロジェクト、③支え合い社会に向けた調査、研究とその広報活動である。

コーディネート事業の実績は、平成 25 年以降 137 件あり、多様な人と資源を結ぶ、事例の多様性が見受けられる。例えば、精神障がい者福祉施設「畦道」の設立において、家主と地域住民との橋渡しなど後見人的役割を果たしたり、また、耕作放棄地を都市部の会社の研修で使用してもらえるよう、伊熊営農クラブと企業の仲介を行ったりした。

自治体による仕事は管轄地域限定だが、おいでん・さんそんセンターでは、生活の実態に即した生活圏という広がりを重視している。それによって、人と資源の結びつきが次々に生まれている。そうした結びつきは、くらしの満足度を高め、Ｉ･Ｕターンの連鎖反応を生み、小学校の生徒数を小学生以下の幼児数が上回る異変（！）が起きている。

また、地域住民とＩ･Ｕターンの連携で小さな経済が動き出している。そのことに主体的に関わる住民による満足度は高く、地域で暮らすことへの誇りすら感じられる。それゆえ、都市との関係も、利害関係を超えた、山村での様々な活動を共に行う同志的な関係が結ばれていることも大いに評価できる。



都市部企業と農地の荒廃に悩む山村の集落営農組合をマッチング。遊休農地を活用した企業ファームで若手社員が育ち、山村にも活気をもたらす。



Ｉターン者の暮らしぶりや空き家物件の内覧を行う「暮らしの参観日」を随時開催。いなか暮らし総合窓口として、３年間で８０世帯、２０７人の空き家への移住をサポート。



都市部生協の社会貢献を兼ねた組合員サービスの収穫体験事業を高齢化で離農が進む山村に誘致。収穫にかかる労力の軽減などで高齢者が元気に。写真はトウモロコシ収穫体験。

DATA　愛知県 豊田市（とよたし）

団体名▶一般社団法人おいでん･さんそん
所在地▶〒444-2424　豊田市足助町宮ノ後26-2(足助支所２階)
連絡先▶TEL：0565-62-0610　FAX：0565-62-0614
E-mail:sanson-center@city.toyota.aichi.jp
URL:http://www.oiden-sanson.com/

【交通のご案内】

自動車▶東海環状自動車道　豊田勘八IC　約15分
東海環状自動車道　豊田松平IC　約15分
猿投グリーンロード力石IC　約15分

鉄　道▶浄水駅(名鉄豊田線)→とよたおいでんバスさなげ足助線(百年草行)　約60分
四郷駅(愛知環状鉄道)→とよたおいでんバスさなげ足助線(百年草行)　約50分
豊田市駅(名鉄三河線)→名鉄バス矢並線(足助行)　約45分

飛行機▶中部国際空港(セントレア)から鉄道または空港バスで約１時間



▶国勢調査人口（単位：人）

市町村名	昭和35年	昭和55年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
豊田市	46,822	281,608	351,101	412,141	421,487	422,542
(旧)足助町	15,704	11,031	9,852	9,263	8,627	7,892

▶人口増減率（単位：%）

市町村名	H27/S35	H27/S55	H27/H12	H27/H17	H27/H22
豊田市	802.4	50.0	20.3	2.5	0.3
(旧)足助町	-49.7	-28.5	-19.9	-14.8	-8.5

▶高齢者・若年者比率（H27 年）（単位：%）

市町村名	高齢者比率	若年者比率
豊田市	20.8	18.3
(旧)足助町	37.9	11.1